



SGSについて話し合うJA北九州ファームの西部長と石井課長

製造のPoint

- もみ米を細かく粉碎
- 乳酸菌と水を粉碎したもみ米に均一に添加する

ジェイエイ北九州くみあい飼料大分工場
製造部の荒金定男副部長

商品・サービス最前線

SGSで飼料コスト低減

耕畜連携で飼料用米活用

(ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社)



JA北九州ファーム八木山牧場の皆さん

JA北九州ファーム株式会社の八木山牧場は、従業員4人での乳雄560頭を飼養する。飼料コストを抑えるため、2021年からSGSを試験的に給与。配合飼料で飼養した場合と比べて枝肉成績に差がなかったため、昨年3月から全頭給与をスタートした。出荷するまでの13カ月間、配合飼料の15%をSGSに置き換え、1

配合飼料の半額程度 オレイン酸の数値も向上

日900kg、月30t弱を給与する。

乳酸菌が添加されているため嗜好性が高く、食いつきが良いという。生産管理部の西正寿部長(八木山牧場農場長)は「生産コスト低減と国産の飼料用米ということで安心感もある。近年求められているオレイン酸の数値も高まり、メリットは大きい」と高く評価する。

SGSを食べて育った牛は、「やきやま高原ビーフ」として、県内のスーパーで販売され、脂身の少ないヘルシーな赤身と肉本来のうまみが人気を集めている。

飼料用米の稲わらも活用 子牛の生産費低減へ

ジェイエイ北九州くみあい飼料は生産基盤を維持・強化するため、今年度から直営で繁殖事業も開始した。繁殖農場で

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社は、管内の堆肥を処理・活用するため、熊本県阿蘇地区で飼料用米の委託生産を始め、生産された飼料用米を同社の大分工場での稲子実発酵飼料(ソフトグレインサイレーズ=SGS)に加工し、飼料コスト低減を目的として養牛生産者へ供給。供給農家からは飼料費の低減となることから、高い評価を受けている。

耕畜連携の取り組みは、堆肥を有効活用して飼料用米を製造し、配合飼料および輸入粗飼料の価格高騰が農家経営を圧迫する中、少しでも安価な飼料を提供するため2020年にスタートした。飼料稲わらについても国産自給飼料として活用を開始した。

大分工場は鶏豚用飼料専用工場だがSGSを製造するため、粉碎機などを新たに導入。

当初はSGSの発酵にばらつきがあったが、乳酸菌と水をまんべんなく添加できるよう改善し、品質が安定した。

稲子実発酵飼料(ソフトグレインサイレーズ=SGS)



概要

収穫した飼料用米を乾燥させずにそのまま粉碎し、フレコンなどに密閉保存してサイレーズ化(乳酸発酵)させたもの。

ここがイチオシ

- ・乳酸菌を添加するため嗜好性が高く、消化率も向上
- ・長期保存が可能
- ・配合飼料を10～20%置き換えることが可能

製造の流れ

大分工場製造部の荒金定男副部長が解説



1日3袋(計900kg)を給与

は、配合飼料より粗飼料を多く必要とする。配合飼料の高騰とともに価格が上昇しているのが粗飼料だ。飼料米の生産拡大にもない、同社では低コスト粗飼料の活用を目的に稲わらの収穫も始めた。

同社養牛課の石井聖計課長は「今後SGSの供給先を5軒程度に増やし、有用性を確立したい。肥育農家の経営に貢献するとともに、稲わらまで有効活用し、繁殖農場で生産される子牛の生産費低減にもつなげたい」と抱負を語る。

今年度は福岡と長崎の肥育農家に500t超を供給する計画だ。同社執行役員の中垣裕二大

分工場長は「配合飼料の価格が高止まりしており、少しでも農家負担の軽減に貢献したい」と話す。

JA北九州ファーム株式会社 | 八木山牧場

- ・本社：福岡県福岡市中央区那の津5-3-1
- ・主な事業内容：家畜の飼育と生産販売、堆肥の生産販売と畜産生産資材の開発と販売
- ・特徴：ジェイエイ北九州くみあい飼料の子会社として、福岡・大分・熊本に直営農場を持ち、「安心・安全でおいしいお肉」をお届けしています！

八木山牧場

- ・所在地：福岡県飯塚市八木山
- ・飼養頭数：乳雄560頭 ・従業員数：4人
- ・独自ブランド：「やきやま高原ビーフ」として県内の「にしてつストア」などで販売

八木山牧場

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社 | 大分工場

- ・本社：福岡県福岡市中央区那の津5-3-1
- ・設立年：昭和42年 7月
- ・エリア：山口、福岡、大分、長崎、佐賀、熊本 の6県
- ・工場：福岡、大分、長崎、熊本
- ・従業員数：220人

大分工場

- ・所在地：大分県速見郡日出町大字川崎字浜田5969-10
- ・生産能力：鶏豚用=1ヵ月6,500t
SGS=1日5.4t
- ・従業員数：23人